

## 若手の声

関東支部・北海道支部の活動報告

### 〈関東支部より〉

#### はじめに

東京大学大学院総合文化研究科の近藤洋平と申します。栗川に代わり、今年度の生物物理若手の会関東支部長に就任いたしました。2年前に関東で行われた夏の学校にはじめて参加し、若手研究者が自主的に学び、交流する場がつけられていることに感銘を受けたことを思いだすと、支部長として若手の会の運営にかかわっていくことについて責任を感じずにはられません。研究のみならず、「事業仕分け」が記憶に新しい科学技術予算の問題、より一般には科学者と社会のかかわりなどについての議論など、活動の幅を広げつつある生物物理若手の会の今後に寄与するため、そしてもちろん生物物理学の発展のため尽力していきますので、よろしく願いいたします。

#### 若手の会関東支部の活動

関東支部が精力的に行っている他分野の若手の会との交流は、最近ますます活発に行われるようになってきています。2月末には東京大学本郷キャンパスにおきまして、生物物理若手の会、生化学若い研究者の会、光合成若手の会での合同セミナーを行いました。

こうした合同セミナーの開催にあたっていつも悩むのは、研究会のテーマをいかに魅力的なものに定めるかです。生化学若い研究者の会とはこれまでに何度か合同での研究会や懇親会などのイベントを企画しており、メンバー同士それなりの面識があったのですが、光合成若手の会とはセミナーどころか、お互いの存在を認知してすらいなない状態からの企画でしたので、それぞれの若手の会のできるだけ大勢が参加に意義を見いだせるようなテーマを設定する必要がありました。そこで光合成若手の会の方からの提案もあり、テーマを「光」としつつも、発表者の研究に対しては、光受

容体の研究者でもよければ分子イメージングや分光分析の人でもよしと、なんらかの形で光が関係していればなんでも構わないという非常にゆるい制限のみを課し、広く発表者を募りました。

このようなある種いい加減とも取られかねないテーマを掲げて開催された合同セミナーでしたが、結果として多くの発表者および聴講者が集まり、非常に盛り上がるセミナーとなりました。研究発表が終わったあとの交流会という名の飲み会においても、参加者同士が活発に議論を行っているようすを見て、セミナーが成功したことを確信しました。

#### 展望

今だからいえることではありますが、私自身は当初他分野の若手の会との交流の意義についていまほどの確信をもってはいませんでした。そもそも生物物理学自体がさまざまな領域からなる分野であり、その内部ですら対話は常にスムーズという訳ではないのにもかかわらず、さらに離れた分野の人間と密に議論することは難しいのではないかという恐れからです。しかし、確かに当初はお互い手探りだった交流も、二度三度と行ううちに徐々にコミュニケーションはスムーズになり、比例して得られるものも増えています。このことは、おそらく生命という現象の解明には多角的なアプローチが必要であることを個々人が実感していることの帰結であり、またそもそも理解したいという思いに分野ごとの違いなどないということでもあるでしょう。このような議論や情報交換のできる場を維持し、発展させていくことは若手の会の重要な役割の1つであると感じています。

今後の具体的な活動としましては、時期は未定ですが、関東支部としては久しぶりに、比較的絞ったテーマでの研究会を企画しています。詳細は決まり次第若手の会 web サイト

<http://bpwakate.net/>

に掲載していきますのでご覧いただければと思います。

東京大学総合文化研究科金子研究室  
博士課程1年 近藤洋平  
kondo@complex.c.u-tokyo.ac.jp

## 〈北海道支部より〉

### はじめに

北海道大学大学院生命科学院修士課程2年の柴崎宏介と申します。田村さんに代わり、生物物理若手の会北海道支部長に就任いたしました。

私は、薬品物理化学の分野から生物物理の分野に入ってから、まだ1年しか経っていない未熟な研究者です。学部時代から、物理や数学を活かして、薬学部で学ぶさまざまな化学物質と生物が織り成す複雑怪奇な現象を解明する研究をしたいと考えておりました。

生物物理という分野は、物理、数学の専門家と生物学の専門家と同じテーブルに着き、同じテーマで議論しあうことができる貴重な、かつ、開放的な分野であり、この点に非常に大きな魅力を感じております。その思いは、去年、北海道で開催された「生物物理若手の会夏の学校」にはじめて参加したことで、さらに強くなりました。特に、参加者の多種多様さ、独創的な研究、自分の研究にかける情熱と積極性、他の研究に対する強い好奇心に、私は衝撃を受けました。

かくなる私が、生物物理若手の会北海道支部長に就任することには大きな責任の重みを感じますが、一方で楽しみにしております。その理由は、第一に、自分で研究会を開いて、大学内のさまざまな分野の研究者の方と交流する機会を自分で作ることができること。第二に、支部同士の連絡を通じて、大学の枠を超えた人間関係、情報交換ができること。第三に、これらの幅広い人間関係を通じて、自分のセールスポイントを客観的に捉えることができることです。

これから、北海道支部長として、生物物理学若手の会、生物物理学の更なる発展のために努力する所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

### 若手の会北海道支部の活動

生物物理若手の会は、異なる研究を行っている研究者のお互いの理解と交流を深めるという目標をもって、活動しております。その為に、北海道支部は年に2回、「生物物理若手の会研究発表会」を行ってまいりました。この会では、生命科学に携わる院生や研究者など多くの方々にきていただき、さまざまな分野の研究発表をもとに議論や研究交流を行っています。発表については、特定のテーマを用意していませんが、多くの参加者が集まり、非常に盛り上がる発表会となっております。

しかし、特定の研究室からの出身者が多いことや、毎回来る参加者が決まっていて、新規参加者が意外に少ない傾向があることを反省いたしました。



去年の夏の学校の様子

そこで、次の研究発表会では、北海道内のみならず、普段は会えない他大学の研究者の新しい研究を紹介する会にしようと計画いたしました。そして、今まで生物物理若手の会研究発表会に参加したことのない方に、積極的に参加をよびかけました。

その結果、7月15日に、理化学研究所から曾田邦嗣先生をお招きし、先生のご講演と北海道大学の生物物理若手研究者の研究発表を併せた「研究者交流会」を開催いたしました。今まで、生物物理とあまり縁のなかった薬学、医学、化学科の研究者にも参加していただき、心の中で感涙いたしました。

曾田先生のご講演は大変好評で、曾田先生と北海道大学の研究者には熱い討論と和やかな談笑を楽しんでいただきました。曾田先生は、どんな質問にも丁寧に解説し、参考文献や勉強方法まで指南してくださいました。

曾田先生に、改めて御礼申し上げたいと存じます。

このような貴重な体験は、若手の会があったから可能だったと思います。すべての枠組みを越えた研究者同士の議論や情報交換を行える場を、大事に発展させていくことにこれからも努力する所存です。

### 展望

北海道支部では、生命数理若手セミナーや生化学若手の会との共同セミナーを企画しています。詳細は、決まり次第若手の会 web サイト

<http://altair.sci.hokudai.ac.jp/biophyy/>  
に掲載いたします。

北海道大学先端生命科学研究院生物情報解析科学研究室  
修士課程2年 柴崎宏介  
shibasaki\_kou@mail.sci.hokudai.ac.jp